

研究結果説明書

1. 事業の実施期間

令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日

2. CORE ネットワークの構成

(1) CORE ネットワークの名称：新潟の未来を SaGaSu プロジェクト

(2) CORE ネットワークを構成する高等学校等

- | | |
|--------------------|------------------------|
| ① 県立佐渡高等学校 (配信校) | ② 県立佐渡高等学校相川分校 (受信校) |
| ③ 県立羽茂高等学校 (受信校) | ④ 県立佐渡総合高等学校 (配信校・受信校) |
| ⑤ 県立佐渡中等教育学校 (受信校) | ⑥ 県立阿賀黎明高等学校 (受信校) |
| ⑦ 県立新潟翠江高等学校 (配信校) | |

3. 調査研究結果の概要

(1) 「教科・科目充実型」の遠隔授業など ICT も活用した連携・協働の取組

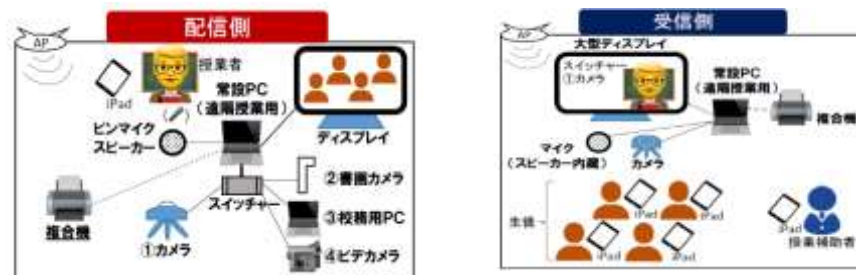
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

① 取組内容

ア 遠隔授業システムの構築

令和3年度において、生徒1人1台端末の環境を前提とした、汎用性の高い遠隔授業システムを構築し(概要図参照)、次のように配信側、受信側を接続した。

<概要図>



令和4年度は、以下の点を変更し、遠隔授業に取り組んだ。

- 生徒用タブレット端末は、県費で購入した Apple 社製端末を使用した。(令和3年度は生徒一人一台端末の環境が整っていなかったため、Google クラウドジャパン合同会社からの貸与端末 (Chromebook) を使用)
- 上記端末の使用を踏まえ、遠隔授業用に Apple 社製電子ペンを、県費で受信生徒数分整備した。
- 配信教員の Google アカウントに、有償ライセンス (Teaching and Learning Upgrade) を付与した (ノイズキャンセルや、ブレイクアウトセッションなどの追加機能を活用)。

イ 遠隔授業運用規程の策定

高等学校教育課が令和4年2月28日付で「遠隔授業の実施に係る運用規程」を策定し、配信校や受信校における留意点とともに、学習評価・単位認定等について実施校に周知した。

ウ 遠隔授業の実施

令和3年度の試行実施を踏まえ、令和4年度は計9科目にわたり遠隔授業を実施し、うち8科目は単位認定を伴う通年配信とした。また、文部科学省事業の特例措置により、一部科目で非常勤事務職員や実習助手による受信側補助も実施した。

② 成果と課題

ア 配信側について

- 配信教員の機器操作、受信生徒のタブレット端末・アプリ操作の習熟度が向上し、年間を通じて大きなトラブルがなく円滑に授業を行うことができた。これは、配信校内の教員同士による日々の情報交換によるものが大きい。
- 配信側教員がデジタル教材の活用等、工夫を重ねながら授業を行っており、生徒対象アンケート結果では、授業の理解度や参加意欲の肯定的回答が8割以上を占めた。
- 少人数かつ実習の伴わない科目においては、ICT環境を十分に活用した、対面と比較しても遜色ない授業が実施でき、小規模校でも専門的な授業を受けることができた。
- ICTを活用した協働学習を繰り返し実践したことによって、遠隔授業であっても生徒が自発的に意見を述べ、積極的に生徒同士で意見を交換できるようになった。
- 生徒が配信教員への問いかけや質問に回答のしづらさを感じているため、マイク配置の工夫や、チャット等の文字情報を活用することなど、システムの改善を図る必要がある。(生徒が個々にマイクイヤホンを準備し、個別の質問に対応する授業もあった。)

イ 受信側について

- 生徒と配信教員とのつながりが、授業のときのみ限定される。生徒の授業以外の場面での様子を知ることができれば、より深い関係を構築することができる。
- 対面授業以上に、遠隔授業では、生徒理解に努め、信頼関係を構築していく必要がある。
- 実験・実習の準備や片付け・実施は、専門の知識が必要となる場面がある。
- 受信側職員が、当該教科以外の教員等であっても、十分に授業をサポートすることができた。ただし、成績評価や授業内の生徒指導等の点においては、当該教

科の教員が望ましい。

- 受信校に特別支援や生徒指導的配慮を必要とする生徒がいた場合の対応について、慎重に行う必要がある。

ウ 実施体制について

- 配信教員は、受信校との兼務教員であるとはいえ、配信校の業務が主となるため、バランスや優先順位の図り方が難しいと感じる場面があった。
- 配信教員が、受信校のクラス担任や当該教科教員などとも相談したい場面もあり、配信校と受信校との連携体制を強化していく必要がある。
- 実験や実習を効果的に行うには、安全面での配慮を行いながら、対面授業の機会を多くするなど、引き続き検証が必要である。

エ 受信側のサポート体制の検証

- 受信補助は教員に加え、本事業の特例を活用した実習助手、事務職員の受信補助の検証を実施した。授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う授業での安全確保等の観点から、受信側職員のサポート体制については、慎重に調査研究を進める必要がある。

<実習助手>

- ・教員スタッフの一人として、普段から教室内で生徒と接しており、実験、実習における教員の補助も行っている。そのため、受信側職員として、授業内での生徒への指導は可能であり、配信教員と連携して、実験、実習を含めた遠隔授業のサポートを円滑に行うことができる点が有効である。

<事務職員>

- ・教員と異なり、通常、生徒を指導する立場にないため、生徒への指導に不安感を持つケースもある。生徒同士のトラブルや、災害等不測の事態の対応を受信校内で共有しておく必要がある。

③ 授業の様子（化学基礎）



配信室の様子



受信教室の様子

(○囲みは受信側補助職員)

(2) 学校間連携を行うための運営体制に関する取組

① 生徒会交流 (SaGaSu 委員会の活動)

ア 取組内容

5月に、ネットワーク構成校の生徒会執行部や部活動の生徒がオンラインで顔合わせをする生徒交流会を実施し、各校の学校紹介や今後の活動に係る情報共有をした。その後も、Google Classroom を利用した月1回のオンラインミーティングをとおして、地域の伝統芸能や芸能団体に関する探究活動や、県外校との生徒交流、SNS での阿賀町・佐渡の魅力発信等、学校の枠を越えてのグループを構成し、活動を行った。

イ 成果と課題

- 5月の生徒交流会以降、月1回のオンラインミーティングをとおして、ネットワーク構成校が学校間で連携しながら、協力して取り組んでいこうとする生徒間の雰囲気醸成できた。
- 10月と2月に、本県と同じく CORE ハイスクール事業に取り組んでいる広島県の離島・中山間地域の学校6校とオンラインで交流する場を設定した。広島県とのオンライン交流をとおして、本県と異なる文化や習慣に触れるとともに、異なる地域でも共通した課題があることを認識するなど、お互いに有意義な交流会にすることができた。
- 一方、今年度は、管理機関が各校のスケジュール調整や活動の指示を行ってきた面があるため、次年度は、生徒・学校がより一層主体的に考え、行動するような取組にしていくことが課題である。



SaGaSu 委員会の様子



広島県との交流会の様子

ウ 広島県との生徒交流会後の参加生徒の感想

- 同じ探究テーマで同じような環境にある学校同士で、探究活動を進める上で悩んでいることを共感でき、有意義な時間を過ごすことができました。
- 佐渡では感じられない新たな地域の魅力を感じられて楽しかったです。
- 私は短い時間の中で発言することができなかったので、もしまたこのような機会があれば、何かしら発言することができるよう頑張りたいです。

② 探究活動の交流事業（ネットワーク校探究活動等成果発表会）

ア 取組内容

10月と1月に、ネットワーク構成校6校の2年生（中等教育学校は5年生）324名が、40グループに分かれて、探究学習の取組を発表する交流会を実施した。また、SaGaSu委員が1年間の活動を紹介し、学校の枠を超えて取り組んだ地域の伝統芸能に関する探究活動の発表も行った。

イ 成果と課題

オンラインの活用により、学校間の距離や参加人数の障壁を越えて、阿賀町と佐渡市の生徒324人による合同発表会を実施することができた。

対面であれば、代表生徒の発表を参観するだけの活動になりがちだが、参加生徒全員が発表及び質疑応答を行うという点にもこだわり、これもオンラインによって実現することができた。教育現場において、オンラインを活用した学校間連携のモデルケースとなる取組になった。

また、事後アンケートにおいて、多くの生徒が、「物事に進んで取り組む力（主体性）」、「自分の意見を分かりやすく伝える力（発表力）」、「目的を設定して確実に実行する力（実行力）」を今後身に付けたい力としており、全員が他校の生徒に発表を行う形の発表会は、今後も重要な取組になる。

次年度は、事前に発表会の意義や目的、発表会をとおして身に付けてほしい力などを参加生徒に周知し、また質疑応答の時間を充分にとるなどして、こうした力を育成するための取組を進めていきたい。



教室での参加生徒の様子



オンライン上での参加生徒の様子

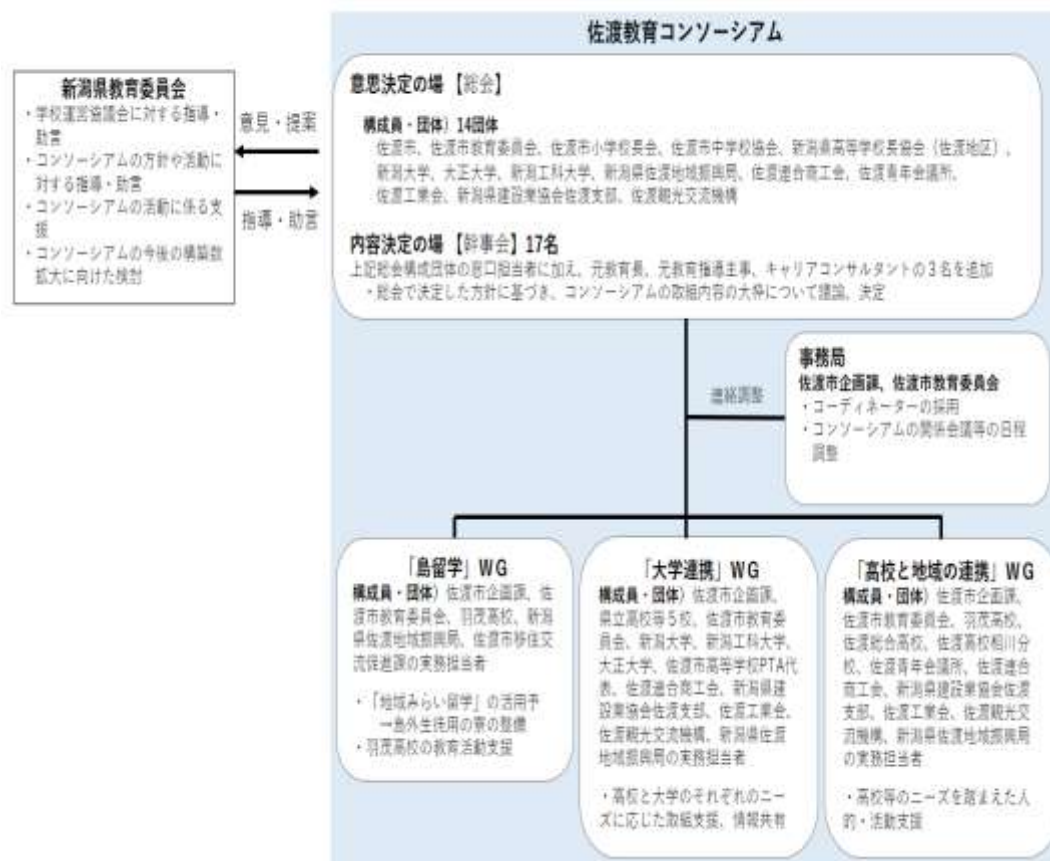
ウ 参加生徒の感想

- 発表するときに、スライドを言葉に合うように動かすことができ、わかりやすく説明することができた。
- 練習の時よりスムーズに発表できた。もう少し原稿を見る回数を減らして発表できるとよかった。
- 発表するときに、ただ書いたものを読むだけになってしまったので、次回は、聞き手のことをきちんと考えて、質問にも答えられるように準備したい。

(3) 市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

① 佐渡教育コンソーシアム

ア 構成図



イ 取組内容

佐渡市は人口減少をはじめとした様々な地域課題を抱えており、このような社会において、子どもたちが自立的に生き、社会に参画する人材となるために必要な資質・能力を育成することが急務となっている。そのため、佐渡市では、小中学校で地域の自然・歴史・文化への理解を深め体系化する「佐渡学」を中心としたキャリア教育に力を入れてきた。

さらに、佐渡市では、地元県立高校等が連携・協働しながら、地域を支える人材育成や地域活性化に取り組むための検討を進め、令和3年3月、佐渡教育コンソーシアムを計14団体で構築し、各校における総合的な探究の時間等の支援を行った。

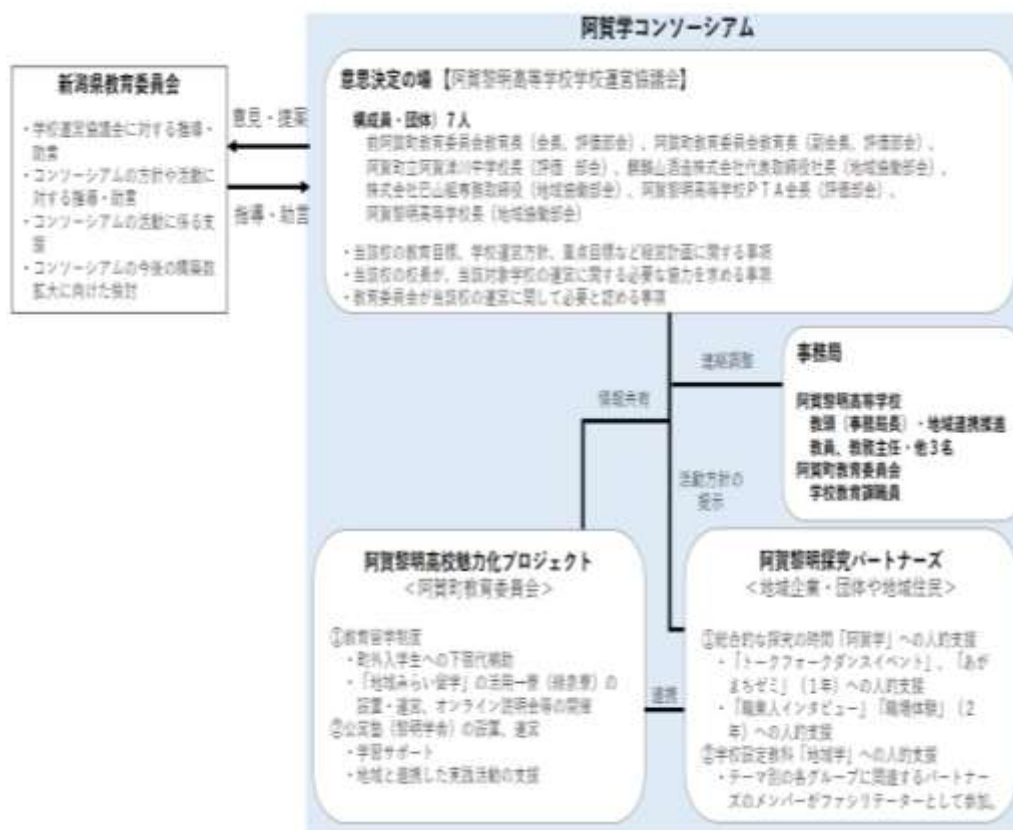
ウ 成果と課題

○ コンソーシアム設置の2年目を迎え、定期的な会合や連絡を重ねながら、各校の魅力化に向けた支援のあり方を検討し、具体的な支援につなげていくことができた。

- コンソーシアムの事業をとおして、島留学（地域みらい留学）の推進等にも高校との連携体制を構築し、羽茂高校の県外募集につなげることができた。
- 教育課程内で地域資源を活用した探究的な学びを充実させることで、生徒が地域活性化に関するイベント、コンテスト等に興味、関心を持つなど、地域の課題解決や地域貢献への動機付けにつながった。
- 探究活動において、コンソーシアムが学校と地域を調整し、お互いのニーズのミスマッチを防ぐための役割を果たした。今後も佐渡島内の学校と、佐渡市、県教育委員会、関係団体が情報共有する上で、コンソーシアムの役割は重要である。
- 佐渡教育コンソーシアムは、5つの高校等を支援するという難しさがあり、学校によって取組に差が生じてしまうことや、担当者の負担などが課題となっている。来年度以降は、学校間で連携しながら、より一層、実効的なコンソーシアムのあり方を研究していく。

② 阿賀学コンソーシアム（学校運営協議会が母体）

ア 構成図



イ 取組内容

- 公営塾による学習支援、県外入学生募集、寮の設置・運営を内容とする「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」を実施した。

- 地元の企業・団体等で構成された阿賀黎明探究パートナーズによる「総合的な探究の時間」及び学校設定科目「地域学」の活動支援を実施した。

ウ 成果と課題

- 公営塾「黎明学舎」のスタッフと阿賀黎明高校の担当教員が毎週打ち合わせを行うことで、円滑にコミュニケーションを図り、総合的な探究の時間や地域学等を進めることができた。
- 地域コーディネーターだけでなく、地域団体「阿賀黎明探究パートナーズ」や「黎明学舎」のメンバーも協力し、探究活動のコーディネートを行っていただき、教員の負担軽減にもつながった。
- 総合的な探究の時間や地域学において、それぞれの授業で、異なる協力者・団体と連携しながら同時に進めているため、それらの有機的に連携させるために、「育てたい資質・能力」についての共有が必要となることから、来年度は、「スクール・ポリシー」策定に向けた検証を、熟議等をとおして、地域と一体となって進めていく必要がある。

4. 調査研究の実績

(1) 実施日程

年 月	実施内容	
	I 高等学校等の連携による遠隔授業など ICT を活用した取組 (○:遠隔授業 □:学校間連携)	II 地元自治体等の関係機関と連携・協働した取組
4年4月	○配信教員による受信校訪問 (遠隔授業オリエンテーション) ○遠隔授業の通年配信開始(8科目)	●管理機関のコンソーシアム担当者との打合せ ●佐渡教育コンソーシアム総会 ●佐渡教育コンソーシアム幹事会
5月	○管理機関等による遠隔授業参観 □ <u>SaGaSu 委員会</u> ・各校からの学校紹介等	●阿賀黎明高校学校運営協議会 ●阿賀黎明高校探究パートナーズによる「阿賀学」「地域学」支援開始 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">●各コンソーシアム・コーディネーターが学校の教育活動と地域協力機関のマッチング開始</div>
6月	□ <u>SaGaSu 委員会</u> ・今後の活動についての打ち合わせ	●コンソーシアムを活用した各校体育祭の見学・参加呼びかけ
7月	□ <u>SaGaSu 委員会</u> ・探究活動、SNS 発信等の分担 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">第1回指導委員会の開催</div>	●佐渡教育コンソーシアムによるSDGsに関する授業実施 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;">●校外での探究活動支援 ・大学・専門機関や現地研修 ・地元企業でインターンシップ ●コンソーシアム主催の地元企業説明会及び企業訪問の実施(3年)</div>
8月	□ <u>SaGaSu 委員会</u> ・探究活動、SNS 発信等、グループ毎の活動	●佐渡教育コンソーシアムによる高校生議会の実施 ●地域住民と連携した各校文化祭の実施に係る企画協議
9月	□ <u>SaGaSu 委員会</u> ・県外交流に向けた準備	●阿賀黎明高校学校運営協議会

10月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業公開週間 (全県配信、企画評価委員の視察) <input type="checkbox"/> SaGaSu 委員会 ・広島県との生徒交流会 <input type="checkbox"/> SaGaSu ネットワーク校合同探究発表会 オンラインによるネットワーク校2年生(5年生)全員参加の探究活動等の中間発表会	●佐渡教育コンソーシアム幹事会② ●コンソーシアムの支援による地域理解を深める講演会等の実施 ・大学、研究所等の学術講演会 ・地域の各専門家を招いた地域文化ワークショップ
11月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業公開週間(全県配信、企画評価委員の視察) <input type="checkbox"/> SaGaSu 委員会 ・オンラインによる県外交流実施 <input type="checkbox"/> 放課後オンライン講習	●コンソーシアムの支援を受けた地域住民参加型の文化祭の実施 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">第2回指導委員会の開催</div>
12月	<input type="checkbox"/> SaGaSu 委員会 ・探究活動の発表準備 <input type="checkbox"/> 放課後オンライン講習	
6年1月	<input type="checkbox"/> SaGaSu 委員会 ・大学進学対策講習 <input type="checkbox"/> ネットワーク校探究活動等成果発表会 ・オンラインによるネットワーク校2年生(5年生)全員参加の探究活動等の成果発表会	●阿賀黎明高校学校運営協議会③ ●生徒、保護者、地域住民へのアンケート調査の実施
2月	<input type="checkbox"/> 遠隔授業研究協議会 (公開授業、配信側教員や受信側補助全県配信、企画評価委員の視察) <input type="checkbox"/> SaGaSu 委員会 ・広島県の成果発表会への参加 <input type="checkbox"/> 阿賀黎明、羽茂、佐渡総合の3校合同探究発表会	●佐渡教育コンソーシアム幹事会③ ●次年度課題研究の共同研究グループのマッチングを検討 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">第3回指導委員会</div>
3月	<input type="checkbox"/> 配信教員による受信校訪問 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業の成績評価と単位認定 管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備	管理機関による1年間の取組の総括と次年度に向けた準備

※学校における調査研究の実施計画の他、コンソーシアムの活動については、学校外の教育資源を活用した具体的な活動の内容が分かるように記入すること。

※遠隔授業システムを活用した教育課程外の取組については、アンダーラインを付すこと。

(2) 調査研究実績の説明

- ①「教科・科目充実型」の遠隔授業など ICT も活用した連携・協働の取組
(受信教室における体制の在り方に関する取組を含む。)

遠隔授業の公開

遠隔授業開始後、約半年間の成果や課題等の共有を図るため、対面またはオンラインでの授業参観を実施した。

ア 実施期間 令和4年11月15日(火)～11月17日(木)

イ 参加対象者 県内の全県立高校等の教員

ウ 実施方法

- 配信校又は受信校での参観(人数制限あり)
- オンライン(Zoom)での参観

エ 実施内容

- 「新潟の未来をSaGaSuプロジェクト」概要説明(高等学校教育課)
- 公開授業参観

オ 日程

No	実施日時	参観授業	配信校 配信担当教諭	受信校 受信補助職員	参加者
1	11月15日(火) 13:20～14:10	2年 政治・経済	新潟翠江高校 教諭	佐渡総合高校 教諭(数学)	配信校対面 3名 オンライン 18名
2	11月15日(火) 13:55～14:42	2年 化学基礎	新潟翠江高校 教諭	阿賀黎明高校 非常勤事務職員	オンライン 19名
3	11月15日(火) 14:23～15:13	5年 数学B	新潟翠江高校 教諭	佐渡中等教育学校 教諭(数学)	配信校対面 3名 オンライン 27名
4	11月16日(水) 9:50～10:45	3年 古典B	新潟翠江高校 教諭	羽茂高校 常勤講師(国語)	配信校対面 1名 オンライン 27名
5	11月16日(水) 10:25～11:12	3年 地理B	新潟翠江高校 教諭	阿賀黎明高校 教頭	配信校対面 2名 受信校対面 1名 オンライン 21名
6	11月16日(水) 10:55～11:50	3年 セミナー日本史	新潟翠江高校 教諭	羽茂高校 実習助手	配信校対面 2名 オンライン 13名
7	11月17日(木) 12:35～13:30	2年 化学基礎	佐渡高校 教諭	羽茂高校 常勤講師	オンライン 23名

カ 事後アンケートの結果（回答者数 128人）

- 公開授業を参観して、今後の授業や実務に活用できるような内容はあったか。

回答項目	回答数	(割合)
あった	64	50.0%
少しあった	50	39.1%
あまりなかった	14	10.9%
なかった	0	0.0%

- 公開授業を参観して、今後の実務に活用できそうな具体的な内容は何か。
(上記質問における肯定的回答をした114人の複数回答)

	回答数	(割合)
オンライン授業の進め方	70	61.4%
教員の指導におけるタブレットの活用方法	65	57.0%
生徒学習に取り組むためのタブレット活用方法	69	60.5%
遠隔授業用機器の活用方法	45	39.5%

- 本日の公開授業は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
満足	49	38.3%
どちらかといえば満足	62	48.4%
どちらかといえば不満足	13	10.2%
不満足	4	3.1%

- 遠隔授業における授業配信等に関わってみたいと思うか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	11	8.6%
少しそう思う	45	35.2%
あまりそうは思わない	48	37.5%
全くそう思わない	24	18.8%

遠隔授業研究協議会

県内外の教職員を対象に、本県遠隔授業に係る調査研究上の成果や課題等について共有を図るため、11月の公開授業同様に、対面またはオンラインで本研究協議会を実施した。

ア 実施日時 令和5年2月8日(水)9:20~12:00

イ 実施会場 県庁17階 0Aルーム(本部)

新潟翠江高等学校、阿賀黎明高等学校、佐渡高等学校、羽茂高等学校

ウ 参加方法・人数

①新潟翠江高校での参加(8名) ②阿賀黎明高校での参加(2名)

③佐渡高校での参加(2名) ④羽茂高校での参加(0名)

⑤オンラインでの参加(107名)

エ 日程

9:20 開会(進行:高等学校教育課企画振興係指導主事)

9:20~ 9:25 高等学校教育課長あいさつ

9:30~ 10:50 公開授業

公開授業①(9:30~10:17) 理科・化学基礎

配信 新潟翠江高等学校(通信制課程) 教諭

受信 阿賀黎明高等学校 2年(5名)

内容 「酸化還元反応」

公開授業②(9:50~10:45) 理科・化学基礎

配信 佐渡高等学校 教諭

受信 羽茂高等学校 2年(22名)

内容 「酸化還元反応」

11:00 研究協議

発表者	新潟翠江高等学校	教諭	(公開授業①配信教員)
	阿賀黎明高等学校	事務職員	(公開授業①受信側職員)
	佐渡高等学校	教諭	(公開授業②配信教員)
	羽茂高等学校	常勤講師	(公開授業②受信側職員)
	新潟翠江高等学校	教諭	(地理A・地理Bの配信教員)
	新潟翠江高等学校	教諭	(数学Bの配信教員)
	羽茂高等学校	実習助手	(セミナー日本史の受信側職員)

11:40 指導・講評

京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井 英真 氏

信州大学教育学部 名誉教授 東原 義訓 氏

12:00 閉会



【公開授業①のオンライン参観画面（新潟翠江高校から阿賀黎明高校へ配信）】



【公開授業① 受信教室（阿賀黎明高校）の様子】

※円囲みは受信側補助職員が生徒の手元を映すためのタブレットを設置している様子



【公開授業②のオンライン参観画面（佐渡高校から羽茂高校へ配信）】



【研究協議の様子】

オ 指導・講評

【京都大学大学院教育学研究科 石井准教授】

- 課題を把握して自力で解決、ペア・グループワークで解決、そしてまとめと振り返りを行う、小学校のような問題解決型の授業展開に学ぶことも重要である。
- 画面上では関係性と思考がドライになりがちで、活動と手元の結果は見えるが、プロセスは意識しないと掴みにくい。あらためて受信側の役割を考える必要がある。
- 見えすぎてしまうがために教員は待てなくなり、指導頻度が多くなるし、管理主義的な眼差しになりやすい。個別指導を理想化しすぎず、生徒主体でつながりあうことを意識してほしい。
- 問いや課題の質ともう少し待つて委ねる姿勢と学び(何を経験し、何が残っているか)を見る眼が大切である。リモートで得た授業観や装備を活かして、対面環境を充実させていって欲しい。問われるのは対面授業のあり方であり、学習観・授業観の転換のきっかけにしてほしい。

【信州大学教育学部 東原名誉教授】

- 新潟県の遠隔授業システムの構成や操作方法は今年度までではほぼ完成されたといっ
てよい。
- 理科の授業という観点から、遠隔授業でここまではできる、できないがある程度示さ
れた。実験は、①映像での代替、②教員による演示実験、③生徒による実験の3パター
ンに分けられるが、大学では教員がいなくてもできる実験がある程度用意されている。
高校の実験においても、生徒だけでできる実験をもう少し開発していってもよいので
はないか。
- 受信側の体制については、ICT支援員のような職種だけでなく、生徒指導もできるよ
うな適性のある方、教育実習生や、大学生など、様々な補助の可能性が考えられる。

カ 事後アンケートの結果 回答者数 83 人

- 公開授業を参観して、今後の授業や実務に活用できるような内容はあったか。

回答項目	公開授業①		公開授業②	
	回答数	(割合)	回答数	(割合)
あった	49	59.0%	43	51.8%
少しあった	29	34.9%	32	38.6%
あまりなかった	5	6.0%	8	9.6%
なかった	0	0.0%	0	0.0%

- 公開授業を参観して、今後の実務に活用できそうな具体的な内容は何か。

(上記質問における肯定的回答者の複数回答)

項目 (複数回答可)	公開授業①		公開授業②	
	回答数	(割合)	回答数	(割合)
オンライン授業の進め方	51	65.4%	45	60.0%
教員の指導におけるタブレットの活用方法	53	67.9%	45	60.0%
生徒学習に取り組むためのタブレット活用方法	51	65.4%	62	82.7%
遠隔授業用機器の活用方法	19	24.4%	17	22.7%

- 研究協議は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	49	59.0%
少しそう思う	24	28.9%
あまりそうは思わない	10	12.0%
全くそう思わない	0	0.0%

- 研究協議会全体は、満足できるものだったか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	51	61.4%
少しそう思う	21	25.3%
あまりそうは思わない	11	13.3%
全くそう思わない	0	0.0%

- 遠隔授業における授業配信等に関わってみたいと思うか。

回答項目	回答数	(割合)
大変そう思う	11	13.3%
少しそう思う	29	34.9%
あまりそうは思わない	32	38.6%
全くそう思わない	11	13.3%

放課後オンライン講習

ア ねらい

本調査研究では、大学進学等を目指す生徒の進路実現や、学習に課題を抱える生徒への支援に向け、遠隔授業の配信に加え、遠隔授業システムを活用したオンライン講習を行っている。令和4年度は、事前に対象校の全生徒（令和3年度は高校2年生、中等教育学校5年生）に希望調査を行い、その結果を踏まえながら、講習内容を決定、実施した。

イ 実施方法

- 双方向ライブ配信形式とする。
- 配信者及び受講者ともに遠隔授業システム設置室を使用することを原則とする。
- タブレット端末を使用して、各講座別の Google Classroom を活用する。

ウ 対象生徒

- 1・2年生（中等教育学校は4・5年生）のうち、大学等進学希望者
- 実用英語技能検定受験希望者

エ 開講する講座及び担当者

- 模擬試験等を活用した大学進学対策
- 検定対策

教科	担当教員	対象者
国語	新潟翠江高校教諭	1年生
数学	佐渡高等学校教諭	1年生
英語	佐渡高等学校教諭	1年生
	新潟翠江高校教諭	2年生

種別	担当教員	対象者
英検	新潟翠江高校教諭	2級受験者 準2級受験者

オ 実績

【登録生徒数】

実施科目名	受講生徒数
1年国語	7人
1年数学	9人
1年英語	10人
2年英語	1人
英検対策	1人

【実施日】

実施日	実施科目
12月6日(火)	2年英語
12月7日(水)	1年国語、英検対策
12月13日(火)	1年数学、1年英語
12月14日(水)	1年国語、英検対策
12月20日(火)	1年数学、1年英語、2年英語
12月21日(水)	1年国語、英検対策
1月10日(火)	1年数学、1年英語
1月11日(水)	1年国語、英検対策
1月18日(水)	英検対策
1月24日(火)	1年数学、1年英語、2年英語
1月31日(火)	1年数学、1年英語
2月1日(水)	英検対策
2月7日(火)	1年数学
2月8日(水)	英検対策
2月15日(水)	英検対策
2月21日(火)	1年数学、英検対策



1年英語の講習の様子

②学校間連携を行うための運営体制に関する取組

SaGaSu 委員会の活動

日時	内容
5月30日(月)	SaGaSu 委員生徒の自己紹介、学校紹介
6月15日(水)	今後の活動について
7月6日(水)	ゼミ班、発信班、交流班の3班に各校で分かれ、活動計画を協議
7月21日(木)	ゼミ班の探究活動の進め方についての協議
7月25日(月)	3つの班で今後の活動についてのミーティングとその共有
8月25日(木)	広島県との交流に向けた準備
9月21日(水)	広島県との交流に向けた最終打ち合わせ
10月17日(月)	広島県との生徒交流会
11月16日(水)	これまでの取組の振り返り
12月9日(金)	ゼミ班における探究活動の発表に向けた準備、確認
12月20日(火)	交流班における今後の交流活動についての意見交換
12月21日(水)	発信班における SNS での広報活動の役割分担
12月22日(木)	ゼミ班における探究活動発表(1/27)の準備 新潟大学名誉教授伊野義博による指導・助言
1月19日(木)	探究発表のリハーサル
1月27日(金)	ネットワーク校探究活動等成果発表会にて、SaGaSu 委員会の活動紹介と、探究活動の成果発表
2月2日(木)	広島県の成果報告会にて、探究活動の成果発表 (羽茂高校3名が代表して発表)
3月24日(金)	今年度の活動のふりかえりと次年度の活動に向けての確認



全体会での意見交換の様子



班活動での意見交換の様子

ネットワーク校合同探究発表会

- ア 日時** 令和4年10月26日(水) 13:40～15:40
- イ 方法** オンライン (Google Meet)
- ウ 参加校** 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計324人
- エ 内容** ・ネットワーク構成校6校324人の生徒が、8人程度のグループに分かれ、他校の生徒に自分の探究活動等の取組を発表、質疑応答
・グループは、発表テーマ、SDGsの17の目標に関連づけて40のグループに編成(以下参照)

オ グループ編成例

チーム番号	ファシリテータ	学校名	探究活動	SDGs17
21		阿賀黎明高等学校	ゲームを利用した地域の活性化	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡総合高等学校	環境工学系列～授業等の取組紹介～	(8) 働きがいも 経済成長も
21	F	佐渡高等学校	人が惹き付けられるような映像について	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡中等教育学校	経済成長や雇用について	(8) 働きがいも 経済成長も
21		羽茂高等学校	職場体験に行って～人手不足の解消に向けて	(8) 働きがいも 経済成長も
21		佐渡高等学校相川分校	リピって佐渡	(8) 働きがいも 経済成長も

ネットワーク校探究活動等成果発表会

- ア 日時** 令和5年1月27日(金) 13:40～15:40
- イ 方法** オンライン (Zoom、Google Meet)
- ウ 参加校** 阿賀黎明高校、佐渡高校、佐渡高校相川分校、羽茂高校、佐渡総合高校の2年生全員、佐渡中等教育学校の5年生全員、合計324人
広島県立日彰館高校、新潟県 SaGaSu 委員会
- エ 内容** ・SaGaSu 委員生徒による委員会紹介、探究活動発表(全体会)
・探究活動等成果発表会(分科会)
各校生徒がグループ毎に1人ずつ、質疑応答を含めて5分で発表
・広島県代表生徒による探究活動発表(全体会)
・高堂景寿指導委員による講評(全体会)



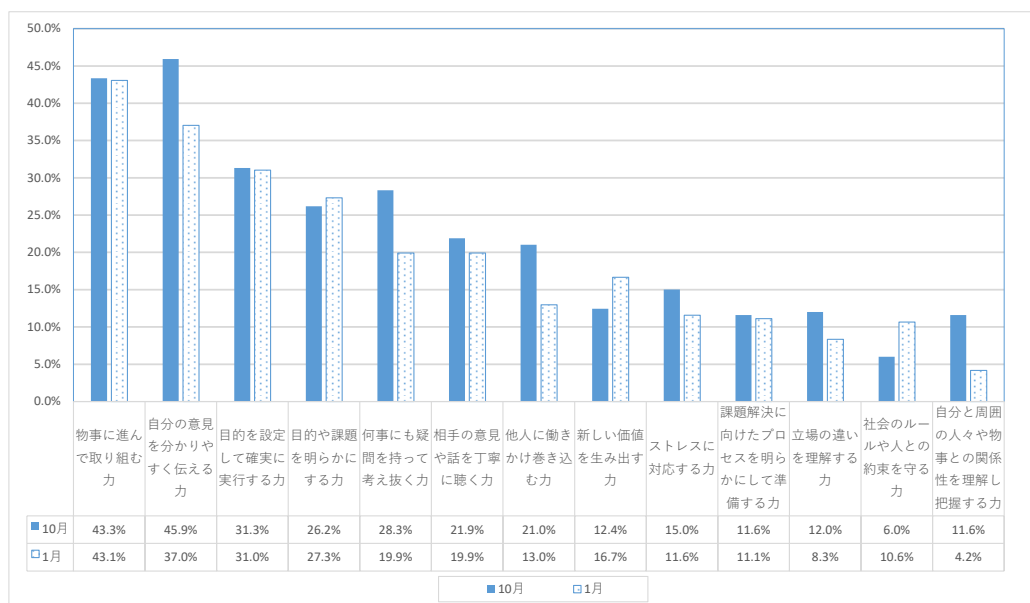
全体会の様子



発表する SaGaSu 委員生徒の様子

オ 合同発表会のアンケート結果

発表会やこれまでの探究学習を通じて、今後あなたが身に付けたい力は何ですか。



地域探究等における3校合同発表会

ア 日時 令和5年2月27日(月) 13:20～15:05

イ 会場 各校(オンライン)

ウ 参加校 羽茂高校、阿賀黎明高校、佐渡総合高校の2年生

エ 内容 3校それぞれの代表グループが、地域資源を生かした探究学習の成果を発表

順番	発表者	発表内容
1	羽茂高校 2名	佐渡観光プラン
2	羽茂高校 1名	部屋の片付けお助けアプリの提案
3	羽茂高校 2名	佐渡のサイクリングコースの作成
4	阿賀黎明高校 6名	食と見守り
5	阿賀黎明高校 1名	スポーツ選手の心と体のケアでまちづくり
6	阿賀黎明高校 1名	「高齢者×Tiktok」でまちづくり
7	佐渡総合高校 3名	人口減少と空き家問題
8	佐渡総合高校 3名	佐渡市が持つ問題
9	佐渡総合高校 2名	少子・高齢化問題
10	佐渡総合高校 2名	人口減少を止めるには

③市町村、高等教育機関、産業界等との協働によるコンソーシアムを構築し、学校外の教育資源を活用した探究的な学びなどによる教育の高度化・多様化に関する取組

佐渡教育コンソーシアム

(1) 佐渡教育コンソーシアム総会

- ア 日時 令和4年4月25日(月) 10:00～11:30
- イ 会場 佐渡市役所 本庁 3階 大会議室
- ウ 内容 令和3年度事業計画、令和4年度事業計画、組織体制について

(2) 佐渡教育コンソーシアム幹事会・ワーキンググループ

- ア 日時 令和4年5月23日(月) 13:30～15:00
- イ 会場 金井コミュニティセンター 2階 大会議室・小会議室
- ウ 内容 幹事長の選任、各ワーキンググループでの協議
- エ ワーキンググループでの協議内容
 - ・「高校と地域の連携」 : 地域人材等についての情報収集 等
 - ・「大学連携」 : 高大連携に向けた情報共有 等
 - ・「島留学」 : 県外生徒の受入体制構築 等

(3) 佐渡教育コンソーシアム講演会

- ア 日時 令和4年11月12日(土) 15:00～17:00
- イ 会場 あいぼーと佐渡 多目的ホール
- ウ 対象 学校関係者、事業所関係者、地域関係者等
- エ 講師 NIIGATA マイプロジェクト☆LABO 宮崎 芳史 実行委員長
- オ 演題 「実践型探究マイプロジェクトの始め方
～地域と中高生の共創が佐渡の未来にもたらす価値～」
- カ 内容
 - ・マイプロジェクトのプロセス
 - ・中等生 PROJECT について
 - ・アクションを学びに変えるリフレクション
 - ・NIIGATA マイプロジェクト事例紹介
 - ・学びの土壌とコーディネーター、コンソーシアム



講演会の様子



グループワークの様子

(4) 佐渡高等学校への支援

【大学出前講義のコーディネート】

- ア 日時 令和4年8月19日(金) 12:50~15:30
イ 会場 佐渡高等学校
ウ 対象 1学年
エ 講師 東京大学 宇宙線研究所 ダニエラ・ハデシュ 助教
オ 演題 「宇宙との繋がりー惑星/星の一生と人類との繋がり入門」

(5) 佐渡高等学校相川分校への支援

【進路ガイダンス】

- ア 日時 令和5年3月17日(金) 1限~4限
イ 会場 佐渡高等学校相川分校
ウ 対象 1年次生、2年次生
エ 内容 ・職業別ガイダンス
地元で働く様々な職業の方から、具体的な仕事内容・仕事のやりがい等について、パネルディスカッション形式で意見交換
分野別に分かれて、各教室で希望する分野の講義に参加
・ハローワーク職員講話
1年次：正社員とアルバイトの違い、企業は高校生に何を求めているか
2年次：就職試験に向けての今後の予定、準備すべきこと
オ 講師 ・製造：キンちゃん本舗株式会社、エスケーエス
・販売：フレッシュマツヤ ・建設：廣瀬組 ・介護：大浦の里
・接客：湖畔の宿 吉田屋 ・自衛隊

(6) 羽茂高等学校への支援

【地域の課題に関する講話】

- ア 日時 令和4年5月31日(火) 12:35~14:35
令和4年6月10日(金) 9:50~11:50
イ 会場 羽茂高等学校
ウ 対象 3学年地域探究コース 14名
2学年地域探究コース 14名
エ 内容
○ 5月31日(火)
・「佐渡市総合計画」から考える～佐渡市を取り巻く社会情勢と現状～
・「佐渡島内のエネルギー事情について」
・「佐渡市の脱炭素・エネルギー政策について」

- ・「佐渡の農を舞台に表現する～新しい里山と棚田の価値を見出す～」
- 6月10日(金)
- ・「佐渡における農業の現状と課題」
- ・「佐渡における水産業の現状と課題」

【SDGsに関するオンライン講義】

- ア 日時 令和4年6月22日(水) 14:40～15:30
- イ 会場 羽茂高等学校 (オンラインで実施)
- ウ 対象 1学年
- エ 演題 「SDGsは他人ゴト?～SDGsを自分ゴトにしよう!～」
- オ 講師 長岡技術科学大学 勝身 麻美 UEA
※「佐渡市高校生議会」の一環として実施

【宿根木地域現地学習会】

- ア 日時 令和4年6月28日(火) 13:00～16:00
- イ 会場 小木民俗博物館、宿根木地域
- ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名
- エ 内容 ・国の重要伝統的建造物群保存地区である宿根木地域についての講義(小木民俗博物館)
・観光ガイドによる現地学習(宿根木地域)

【探究学習に向けたビジネスマナー講座】

- ア 日時 令和4年7月8日(金) 10:55～11:50
令和4年7月12日(火) 12:35～13:30
- イ 会場 羽茂高等学校
- ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名
3学年 地域探究コース 14名
- エ 講師 三条地域若者サポートステーション 佐渡サテライト 仲川 健太 相談員
- オ 内容 ビジネスマナー全般、電話のマナー、メールのマナー、名刺交換のマナー等



電話の対応の様子



名刺交換の様子

【探究的な学びについての助言・指導】

- ア 日時 令和4年10月11日(火) 12:35～13:30
- イ 会場 羽茂高等学校
- ウ 対象 3学年「地域探究」選択者
- エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 五百川 将 放課後子ども支援担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
- オ 内容 ビジネスプランについてのプレゼンテーションと、講師によるフィードバック

【ジオパーク推進室との連携授業】

- ア 日時 令和4年10月26日(水) 13:30～15:30
- イ 会場 羽茂高等学校、宿根木地域
- ウ 対象 1学年
- エ 講師 佐渡市教育委員会 社会教育課 相田 満久 ジオパーク推進指導員
- オ 内容 ・佐渡ジオパークの講義 ・宿根木地域の現地学習

【佐渡島 SDGs 天・地・人サイエンスプロジェクト 2022・ポストイベント】

- ア 日時 令和4年10月25日(火) 13:40～15:40
- イ 会場 羽茂高等学校
- ウ 対象 2学年 地域探究コース 14名
- エ 内容 ・「佐渡島の建築について(宿根木地域の重要伝統的建造物群保存地区を中心に)」
・「海洋再生可能エネルギーについて」
・「達者集落や姫津集落、相川羽田地区の地域ネコの行動軌跡から学ぶ心地良いオープンスペース」



建築に関する講義の様子



エネルギーに関する講義の様子

【佐渡島 SGD's 天・地・人サイエンスプロジェクト 2023・イベント】

- ア 日時 令和4年12月2日(金) 9:50~11:50
イ 会場 羽茂高等学校
ウ 対象 2学年「ソーシャルデザイン」選択者 16名
エ 内容 ・大学生による実践発表・研究発表
「相互教育型ビジネスモデル ～Community Lab で価値を生み出す～」
「益田孝と偉人たちに関する研究～人と人との繋がり歴史～」
・高校生によるビジネスプラン発表(大学教員、大学生等による助言)



発表テーマに関するグループワークの様子



大学生によるビジネスモデルの実践発表

(7) 佐渡総合高等学校への支援

【地域の産業を知る講演会】

- ア 日時 令和4年5月27日(金) 13:25~15:05
令和4年6月3日(金) 13:05~14:40
イ 会場 佐渡総合高等学校
ウ 対象 1学年 98名
エ 講師 シーサイド・ファクトリー、佐渡地域振興局農林水産振興部、東京税関佐渡監視署、東京税関新潟税関支署、近藤組、内海府漁業生産組合、ダイチク佐渡、SAKAMA、Show by JAWS
※「海洋パイオニアスクールプログラム」事業の一環として実施



漁業に関する講義の様子



マリンスポーツに関する講義の様子

【佐渡島 SDGs 天地人サイエンスプロジェクト模擬講義】

- ア 日時 令和4年6月14日(火) 13:20~14:10
- イ 会場 佐渡総合高等学校
- ウ 対象 佐渡総合高等学校1学年 98名
- エ 内容 ・「日本の科学技術黎明期に活躍した佐渡にまつわる人々」
・「星空を眺め続けてたどり着いた科学の世界」

【SDGs に関するオンライン講義】

- ア 日時 令和4年7月26日(火) 13:20~14:10
- イ 会場 佐渡総合高等学校 (オンラインで実施)
- ウ 対象 1学年
- エ 演題 「持続可能な社会創成を目指して~SDGs~」
- オ 講師 長岡技術科学大学 志田 洋介 准教授
※「佐渡市高校生議会」の一環として実施

(8) 佐渡中等教育学校への支援

【「総合的な探究の時間」中間発表会の講評】

- ア 日時 令和4年10月13日(木) 14:25~16:00
- イ 会場 佐渡中等教育学校
- ウ 対象 4・5学年
- エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 棚村 麗乃 みなとオアシス担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
- オ 内容 生徒が「総合的な探究の時間」の学習成果について発表し、講師が発表内容について指導・講評

【「総合的な探究の時間」発表会についての助言・指導】

- ア 日時 令和5年3月2日(木) 13:30~16:08
- イ 会場 佐渡中等教育学校
- ウ 対象 4・5学年
- エ 講師 佐渡市地域おこし協力隊 棚村 麗乃 みなとオアシス佐渡両津担当
佐渡市地域おこし協力隊 丸山 良輝 佐渡教育コンソーシアム担当
- オ 内容 生徒がプレゼンテーションを行い、講師によるフィードバック

(9) 各学校からの生徒派遣（佐渡市高校生議会）

佐渡市主催の高校生議会に、佐渡島内の高等学校、中等教育学校が参加し、佐渡市の課題解決に向けた質問や、SDGsの17の目標に関連付けた政策提案を行った。

ア 日時 令和4年8月19日(金)

イ 会場 佐渡市議会 議場

ウ 内容 ・議会、選挙についての学習 ・議場見学 ・高校生議会

エ 高校生による代表質問

学校名	質問項目	答弁者
佐渡高校	SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」ターゲット11.4「世界の文化遺産及び自然遺産の保護・保全の努力を強化する」に関連して、 ○ 佐渡の観光資源の情報発信について ○ ロードバイクによる佐渡の名所・旧跡を巡るコースプランの提案について	市長 観光振興部長
佐渡中等教育学校	SDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」に関連して、 ○ 商店街の再生・活性化について ○ 学生や高齢者等が活用できるフリースペース設置の提案について	副市長 地域振興部長
佐渡総合高校	SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」に関連して、 ○ 各種大会における生徒のコンディション・費用等の離島によるハンデ軽減の支援について ○ 県大会等の佐渡への誘致について	教育長
羽茂高校	SDGsの目標1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、4「質の高い教育をみんなに」、11「住み続けられるまちづくりを」に関連して、 ○ 小中学校の給食の無償化について ○ 規格外野菜の活用等による地産地消の推進について	市長 教育次長



参加生徒の集合写真



議場の様子

(10) 「地域みらい留学」への支援

【オンラインによる合同学校説明会】

日時	内容	参加人数（延べ）
6月4日（土）・5日（日）	・住まい、暮らしについての説明	155名
7月9日（土）・10日（日）	・探究的な学習等、特徴的な学習	57名
8月6日（土）・7日（日）	内容についての説明	31名
9月3日（土）・4日（日）	・佐渡の魅力紹介 等	68名

【オンラインによる個別相談会】

日時	内容	参加組数
8月26日（金）15:00～15:45	・学校についての説明	1組
11月16日（水）19:00～20:00	・受入体制についての説明	1組
1月5日（木）15:00～16:00	・質疑応答	1組

【対面による合同学校説明会】

- ア 日時 令和4年9月24日（土） 11:00～16:00
- イ 会場 国立オリンピック記念青少年総合センター 国際交流棟
- ウ 内容 ・高校についての説明
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
・質疑応答
- エ 参加 地域みらい留学を検討している中学生とその保護者 3組

【県外生徒対象のオープンスクール】

- ア 日時 令和4年11月4日（金） 13:00～16:00
- イ 会場 羽茂高校
- ウ 内容 ・学校についての説明
・校舎見学
・授業、部活動見学
・学生寮、ハウスマスター等、受入体制についての説明
- エ 参加 地域みらい留学を検討している中学生とその保護者 1組

阿賀学コンソーシアム

(1) 学校運営協議会の開催

開催日	参加者	主な内容
5月17日(火)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動方針について ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて
10月6日(木)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の進捗状況について ・連携型中高一貫教育の在り方について ・スクール・ミッション案について ・「地域探究」「スクール・ミッション」をテーマに熟議(ファシリテーター：黎明学舎)
1月18日(水)	委員、学校教職員、阿賀黎明探究パートナーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の振り返りと次年度の活動方針 ・スクール・ポリシーの策定に向けた連携 ・新潟の未来を SaGaSu プロジェクトについて「熟議」(ファシリテーター：みらいず Works)



熟議で意見を出し合う様子



熟議でまとめた意見を発表する様子

(2) 「阿賀黎明高校魅力化プロジェクト」の取組（学校への地域探究活動の支援）

【福祉体験】

ア 日時 令和4年9月2日(金)、9月6日(火)、9月9日(金)、9月16日(金)

イ 対象 1学年17名

ウ 内容 地域の福祉サロンでのレクリエーション企画・実施をとおして、プロジェクトを進める流れを理解し、今後の探究活動の企画・実施につなげる。



ワークショップで発表する生徒の様子



座談会の様子

【あがまちゼミ】

- ア 日時 令和4年10月14日(金)、11月4日(金)、12月9日(金)
- イ 対象 1学年17名
- ウ 内容 プロジェクト実践者の話を聞き、地域を知るとともにプロジェクトがどのように成立していくかを学び、2年次のプロジェクト企画につなげる。
- エ テーマ 「まちづくり・福祉」「観光・商業」「自然・農林業」

【阿賀町さいこうプロジェクト（総合的な探究の時間）】

- ア 日時 令和4年6月29日(水)、9月15日(木)、9月16日(金)
- イ 対象 2学年16名
- ウ 内容
- ・自分の興味関心に応じてテーマを設定し、地元関係者へのインタビューの後、プロジェクトを設計し実践する。
 - ・地元関係者と連携しながら、各テーマのプロジェクト活動を実施する。
 - ・活動実施後は班ごとにスライドとポスターを使って発表する。



動物カフェの様子



創作料理の様子

【地域学（学校設定科目）】

- ア 日時 令和4年6月～11月の間、計8回
- イ 対象 2学年教養コース9名
- ウ 協力 阿賀黎明探究パートナーズ
- エ 内容
- ・阿賀黎明探究パートナーズおよび地域サポーターと一緒に、地域をフィールドにプロジェクトを企画・実施し、まとめて発表する。
 - ・令和4年度は「食と見守りプロジェクト(福祉×農業)」と「高校生のプチ起業プロジェクト(まちづくり×商業)」の2チームに分かれプロジェクト活動を実施し、夏休み中も自主活動を行った。

【新潟ふるさとCM大賞への取組】

- ア 日時 令和4年5月～9月の間、計13回
- イ 対象 3学年教養コース14名
- ウ 協力 阿賀町役場まちづくり観光課
- エ 内容
- ・高校生の視点で「ふるさと」を再解釈し、30秒のCM制作を体験する。

・企画、撮影、編集等すべてを生徒自身で行い、発表する。

オ 生徒の活動の様子（阿賀町各所で撮影）



向ノ島公園



麒麟山



麒麟山展望台



阿賀野川

(3) 入学生募集にむけた活動

【学校見学&まなび体験会（現地開催）】

域外、県外を含め、中学生及びその保護者を対象に、阿賀黎明高校や学生寮、阿賀町内を見学して魅力を体感してもらい、教育留学生と交流する機会を設定した。

回	実施日	参加中学生人数	内容
1	7月23日（土）	10人	・学校及び黎明学舎、寮の見学 ・在校生とのまちあるきワークショップ ・在校生による体験企画、プレゼンテーション ・文化祭の公開（10月）
2	8月27日（土）	4人	
3	10月8日（土）	5人	

【「地域みらい留学」オンライン合同説明会（高校別説明会）】

回	日時	参加人数（延べ）
1	6月4日（土）・5日（日）	128人
2	7月2日（土）・3日（日）	77人
3	8月6日（土）・7日（日）	50人
4	9月3日（土）・4日（日）	58人



在寮生との交流の様子

(4) 専用ホームページによる情報発信 <https://miryokuka.com/agareimei/>

- 生徒募集に向け、阿賀町のホームページ内に、阿賀黎明高校魅力化プロジェクトの専用ページを掲載



黎明学舎の様子

④その他（指導委員会の開催状況）

会議名	第1回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会
実施日時	令和4年7月11日(月) 午前10時～12時
会場	新潟県庁15階 教育委員会室
参加者	石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員 ※欠席：岩佐委員（事前に意見聴取）
次第	1 開会あいさつ（長谷川教育次長） 2 自己紹介 3 資料説明 ①新潟県高等学校教育の現状と課題、新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 1年目の取組と2年目の計画 ②SaGaSu プロジェクトが見据える本県高校教育の可能性、新潟の未来を SaGaSu プロジェクト 2年目の進捗状況
主な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠隔授業内であっても、生徒同士の会話や、意見を出し合い共有する時間を確保することが大切である。 ○ 他の生徒の意見を聞き、自分の意見を修正、改善していくような、協働学習を実践して行ってほしい。 ○ 授業中の生徒同士の対話などを文字に残し、ポートフォリオのような成果物として残すことで、評価につなげていくことができる。 ○ 1人1台端末を用いた遠隔授業の取組は、「新潟モデル」として、全国に知られてきている。さらに、県内の高等学校等をはじめ、中学校にも発信し、広めてほしい。 ○ 生徒が協働して、主体的に学び、自由に自分の意見を出し合うことができる仕掛けが大切である。生徒の様子を見守りながら、評価につなげていく必要がある。 ○ 遠隔授業は、生徒も先生も元気にする取組となる可能性がある。環境整備や、人への投資等、何を大切にしていくかを共有して進めてほしい。 ○ ネットワークを構成することで、人と人とのつながりが増えていき、お互いに助け合っていく環境ができる。非常に良い取組なので、丁寧に実証して行ってほしい。 ○ 本プロジェクトの取組は、新潟県の高等学校教育や、各校の学校改革において、大きな役割が期待できる。

会議名	第2回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会
実施日時	令和4年11月7日(月) 午前9時30分～11時30分
会場	自治会館 別館 第1研修室 (オンライン開催)
参加者	石井委員、東原委員、長尾委員、高堂委員 ※欠席：岩佐委員 (事前に意見聴取)
次第	1 開会あいさつ (長谷川教育次長) 2 資料説明 ①令和4年度の進捗状況 ②今後の遠隔教育について
主な指導事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遠隔授業で理科の実験に挑戦されたことに拍手を送りたい。このノウハウは今後非常に重要になってくる。遠隔授業でもできること、遠隔授業では難しいこと、また、その場合に対応すべきか等を検証してほしい。 ○ 遠隔授業だから余計に、生徒に説明しなければならないと思ってしまうかもしれないが、指示がなくても生徒はできることがある。また、様々なICTを活用することによって、先生の指示がなくても授業が成立する。 ○ 遠隔授業におけるICTの活用が、生徒の学びをどう変えていったのか、本プロジェクトの取組をとおして検証してほしい。 ○ 遠隔授業における合同授業を行うときは、時程を揃えることが課題となることが多い。例えば、全部揃えるのではなく、遠隔授業の1コマだけを揃え、成功した事例もある。これまでの遠隔授業のノウハウもだいぶ蓄積されてきたので、合同授業の実施を検討してもいいのではないか。 ○ 合同発表会における生徒の発表では、各校生徒のレベルも様々な印象があった。段階を踏んで、成長を感じることができ形で実施できるといい。 ○ グループ分けで、SDGsに関連づけたり、同じようなテーマで結びつけて、考えを掘り下げていくことは良い。一方で、型にはめずに、ある程度、生徒の自主性に任せて議論させてみることも試みとしても面白い。 ○ 物事をまとめて、人前で分かりやすく説明し、それに対して質問するというプロセスは、生徒同士で学びが深まっていくものである。今後の生徒の成長に期待している。 ○ 質問力、つまり「ツッコミ」が大切である。今の高校生は与えられた課題に取り組むことはできるが、自分から問題を見つけることは難しい。何事にも疑問を抱く訓練となる。 ○ 本プロジェクトをとおして、新潟の高等学校をどうしていきたいか、そのビジョンを示していく必要がある。

会議名	第3回「新潟の未来を SaGaSu プロジェクト」指導委員会
実施日時	令和5年2月15日(水) 午後2時～4時
会場	自治会館 別館 第1研修室(オンライン併用)
参加者	東原委員、長尾委員、高堂委員、岩佐委員 ※欠席：石井委員(事前に意見聴取)
次第	1 開会あいさつ(長谷川教育次長) 2 資料説明 ①令和4年度の事業報告 ②令和5年度の遠隔授業に向けて ③令和6年度以降の自走体制構築に向けて
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新潟県の遠隔授業では、1人1台端末を用いて、個別の学習状況の把握ができています。生徒の取組状況を把握することができ、つまづいていると分かればフォローアップできる。生徒の学びには、個人差があるため、それぞれの状況に合わせた働きかけを行って、個々の学びを支援してほしい。 ○ 配信教員は、機器の操作はクリアし、今後はより一層、授業の質を向上させていくことが課題となる。 ○ 公開授業を参観した教員のアンケートでは、「遠隔授業に関わってみたい」という意見が多く、これはチャンスである。より多くの教員が、遠隔授業に関わることを期待している。 ○ 複数校同時配信を実施する場合は、両校の配信環境やツールをよく確認し、両校が同じ条件で実施できる環境づくりをすべきである。 ○ 書道を遠隔授業で行う場合は、書画カメラが2～3台あるといい。先進事例を参考にして、取り組んでほしい。 ○ 配信センターを設置した場合、専任教員は遠隔授業が中心となるが、教員にとっては、遠隔授業だけでなく、週に1回でも対面授業を行う環境を整えると良い。 ○ 10月と比べて、1月の探究活動等成果発表会は、各校とも各段にプレゼンテーション力が向上した。質問も活発で、鋭い質問をする生徒も多く見受けられ、成果を感じた。 ○ 探究活動等の発表会後のアンケートにある「身に付けたい力」を、各校で到達目標として共通理解を持って臨むと、より意味のあるものになる。 ○ 探究活動の取組に関しては、高校生は、まだ力を最大限に発揮していない印象である。しかし、高校生が本気になれば、想像を超える力を発揮することがある。もっと高校生が本気になって活躍できる場を設けてほしい。 ○ 他校生徒との学校間連携や、地域との協働の取組をとおして、社会性のある生徒を育ててほしい。

5. 遠隔授業の実施状況

受信校	教科	科目	遠隔授業を実施した授業回数（対面授業を除く。）
佐渡高校相川分校 2年	地理歴史	地理A	103
羽茂高校 2年	理科	化学基礎	68
羽茂高校 2年	地域探究	ソーシャルデザイン	10
羽茂高校 3年	国語	古典B	68
羽茂高校 3年	地理歴史	セミナー日本史	103
佐渡総合高校 2年	公民	政治・経済	68
佐渡中等教育学校 5年	数学	数学B	68
阿賀黎明高校 2年	理科	化学基礎	103
阿賀黎明高校 3年	地理歴史	地理B	103

6. 調査研究の進捗状況、成果、評価（※目標設定シート（別紙様式1 別添4）を添付）

(1) 本構想において、実現する成果目標の設定（アウトカム）

ア 学びの基礎診断等により把握する生徒の学力の定着・向上の状況

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		(1) 50%以上 (2) 10%以上	(1) 60%以上 (2) 15%以上	(1) 70%以上 (2) 20%以上
実績値		(1) 95.2% (2) 13.8%	(1) 80.6% (2) 21.0%	
把握のための測定方法及び指標	<p>(1) 遠隔授業受信校で実施する授業アンケート（年度末）において、次の質問項目に対する肯定的回答（①と②）の割合を指標とする。</p> <p>【質問1】遠隔授業は対面授業と同じくらい内容を理解できたか。</p> <p>【回答】①理解できた ②ある程度理解できた ③あまり理解できなかった ④理解できなかった</p> <p>【質問2】遠隔授業や地域と連携・協働した探究学習によって、学習意欲の向上につながったか。</p> <p>【回答】①向上した ②ある程度向上した ③あまり向上しなかった ④向上しなかった</p> <p>(2) 学びの基礎診断認定ツールであるベネッセ・コーポレーションの教材を活用して、ネットワーク校2年生の国数英の学習到達ゾーン（GTZ）が1年間で1ランク以上上がった生徒の割合を指標とする。（遠隔授業配信センターである新潟翠江高等学校は除く。）</p>			

イ 地域課題の解決等の探究的な学びに関する科目等の数

(総合的な探究の時間を含む。)

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		23	25	27
実績値	23	23	23	

(参考) 上記のうち、学校設定科目の数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		16	18	20
実績値	16	16	16	

ウ 免許外教科担任制度の活用件数

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		13	12	11
実績値	13	12	9	
構成校の数	7校			

エ その他、管理機関が設定した成果目標

成果目標①：学校が「進路実現に役に立つ」と回答した生徒の割合増加

	2年度(実績)	3年度	4年度	5年度
目標値		2年度比5ポイント増	2年度比8ポイント増	2年度比10ポイント増
実績値	県平均 68.4% ネットワーク校(新潟 翠江除く)平均 67.5%	県平均 71.4% ネットワーク校(新潟 翠江除く)平均 66.3%	県平均 71.2% ネットワーク校(新潟 翠江除く)平均 65.1%	
目標設定 の考え方	<p>例年2月に県教育委員会では、中等教育学校5年生と高等学校2年生(全日制・定時制)を対象に、学校満足度を把握するアンケート調査を実施しており、その中の「進路実現に学校は役に立っている」と感じた生徒の割合は県の教育施策の点検評価の指標ともなっている。各構成校が本事業の取り組んだ成果を定量的に表すことができ、本事業の取組を推奨するためのエビデンスとしても活用できる。</p> <p>【参考】令和3年度のネットワーク校の実績(新潟翠江除く) 佐渡 71.4%、佐渡相川 38.5%、羽茂 64.9%、佐渡総合 57.8%、佐渡中等 84.8%、阿賀黎明 51.7%</p>			

成果目標②：県のアンケート調査における地域への理解や将来の貢献意識の増加

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
目標値		全県平均割合 +10ポイント	前年度自校割合 +10ポイント	前年度自校割合 +10ポイント
実績値		I 77.9% (+12.1) II 73.8% (+5.1) III 79.9% (▲1.7)	I 76.0% (▲1.9) II 70.5% (▲3.3) III 80.4% (+0.5)	
目標設定 の考え方	<p>地域と連携・協働した探究的な学びの充実により、生徒の意識がどのように変容したかを測るため、県が2月に実施するアンケート調査（高校1・2年及び中等教育学校4・5年）の項目に次の3つの質問項目を新たに設定し、ネットワーク校以外の高校等との比較も踏まえながら、割合の変容をみることとする。</p> <p>I 地域の人と対話したり、一緒に活動したりしたことが、自分の成長につながったと思うか。 ①そう思う ②ある程度思う ③あまり思わない ④思わない</p> <p>II 地域の魅力を理解したり、地域課題を地球規模の課題と関連付けて学習することで、地域に対する興味・関心が高まったか。 ①とても高まった ②ある程度高まった ③あまり高まらなかった ④高まらなかった</p> <p>III 自分の生まれ育った地域に将来貢献したいと思うか。 ①そう思う ②ある程度思う ③あまり思わない ④思わない</p>			

(2) COREハイスクール・ネットワークとしての活動指標（アウトプット）

ア COREネットワークの構成校における遠隔授業の実施科目数

	2年度	3年度	4年度	5年度
実績	0	3	9	
見込み		3	9	17

イ 地元自治体等の関係機関とコンソーシアムを構築している学校数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0校	6校	6校	
見込み		6校	9校	14校

ウ その他、管理機関が設定した活動指標

活動指標①：遠隔授業に関する公開授業・研究協議会等の開催回数

	2年度（実績）	3年度	4年度	5年度
実績	0回	公開2・研究1	公開2・研究1	
見込み		公開2・研究1	公開5・研究1	公開10・研究2
活動指標の考え方	配信校及び受信校での公開授業や県内外対象の研究協議会の開催回数は、遠隔授業の質の向上と成果の公開・普及について評価できる。			

7. 次年度以降の課題及び改善点

【令和5年度 配信科目一覧】 ★は同時配信

配信側	受信側	教科	科目	単位数	備考
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡高校相川 分校2年	芸術	書道I	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校2年	理科	化学基礎 ★	2	通年配信
佐渡総合高校	羽茂高校2年	地域探究	ソーシャル・ デザイン	2	スポット 配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	国語	古典B	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	羽茂高校3年	地理歴史	セミナー 日本史	3	通年配信
佐渡高校	羽茂高校2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡総合高校 2年	公民	政治・経済	2	通年配信
佐渡高校	佐渡総合高校 2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡総合高校 2年	福祉	社会福祉基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校5年	数学	数学B	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校5年	外国語	論理・表現Ⅱ	2	通年配信
佐渡高校	佐渡中等教育 学校5年	理科	地学基礎	2	通年配信

新潟翠江高校 (通信制課程)	佐渡中等教育 学校 4年	情報	情報 I	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 2年	理科	化学基礎 ★	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 3年	地理歴史	地理 B	3	通年配信
佐渡高校	阿賀黎明高校 2年	理科	地学基礎	2	通年配信
新潟翠江高校 (通信制課程)	阿賀黎明高校 1年	芸術	書道 I	2	通年配信

令和4年度(第2年次)では、8科目にわたり、単位認定を伴う通年の授業配信を実施し、受信側体制等の課題も含め、遠隔授業のノウハウを蓄積してきた。令和5年度は、前頁の表のとおり、配信科目を17科目に拡大し、下記の1～5の調査研究を実施する。

(1) タブレット端末とクラウドを活用した効果的な遠隔授業の実施

本県の遠隔授業では、生徒1人1台端末を前提として取り組んでおり、教職員の端末操作とクラウドの活用の習熟度を高めるとともに、遠隔授業の通年配信の中で、反転学習の要素を踏まえた効果的な授業方法の実証研究も行っている。配信教員は、機器の操作は習得しているので、今後はより一層授業の質を向上させていくことが目標となる。ICTを活用しながら、生徒同士の意見の発表や共有を行うなど、生徒の主体的・協働的な学びに向けた効果的な遠隔授業の方法をさらに研究していく。

(2) 複数校同時配信の遠隔授業に関する調査研究

小規模校の生徒の「協働的な学び」の充実に向け、複数校への同時配信について取り組むこととしている。羽茂高校と阿賀黎明高校の校時をそろえ、「化学基礎」の遠隔授業を同時配信し、多様な意見に触れ、協働的な学習を可能とする遠隔授業のあり方について検証する。

(3) ネットワーク構成校での教育課程の共通化に関する研究

令和5年度の配信科目において、ネットワーク構成校の教育課程の中で、「地学基礎」の共通化を図り、地学の専門教員配置校から「地学基礎」の配信を4校に行うこととしている。阿賀町と佐渡市がもつ地理的環境や地質の特徴をお互いに学び合う機会を創出するなど、共通化した配信科目における遠隔授業のあり方について、複数校同時配信を見据えながら、検証を進めていく。

(4) 遠隔授業における実験・実習のあり方に関する研究

これまで、理科や芸術等における実験・実技の効果的な指導方法や、VR の活用、地元介護系人材のサポートによる福祉の配信のあり方について検討を進めてきた。来年度は、これらの検討を踏まえて、配信科目に「書道Ⅰ」と「社会福祉基礎」を実施する予定である。どちらも実習を伴う科目であることから、遠隔授業における実験・実習の効果的な指導方法や、先端技術を活用した指導方法の研究を進めていく。また、情報科目については、実習の指導について、遠隔による障壁は小さいと考えており、「情報Ⅰ」も新規科目として配信することとする。

(5) 受信体制のあり方に関する研究

国委託事業では、受信教室に教員以外の学校職員を配置することが特例的に認められている。本県では、受信側職員として、実習助手や非常勤事務職員を配置し、授業中の生徒への指導や、実験・実習を伴う指導等、受信側のサポート体制の検証を進めてきた。次年度も、受信側の羽茂高校及び阿賀黎明高校において、引き続き教員以外の学校職員を配置し、受信側職員に係るマニュアルの作成や、指導内容の確認等を行いながら、受信体制のあり方について、引き続き研究する予定である。

Ⅱ 学校間連携を行うための運営体制に関する調査研究

(1) ネットワーク構成校 6 校による連携

これまでの取組では、管理機関が中心となって生徒間交流や関係教員の情報共有の機会を設定してきた。令和 5 年度は、ネットワーク構成校の生徒及び教員が主体的にプロジェクトの参画者となれるよう、引き続き、以下の機会を設定し、管理機関として支援する。

ア 生徒会執行部の生徒を中心に、地域の魅力発信や県外交流等の活動を行う「SaGaSu 委員会」

イ 探究学習の合同発表や、各種講習を一緒に学んで高め合う「SaGaSu ゼミ」

1 年生：「探究スキル」や「地域の魅力や課題」をテーマとした講演会や意見交換の機会の設定

2 年生：SDGs の 17 の目標に関連付け、ネットワーク構成校の生徒をグループ化し、探究学習の成果を共有できる機会の設定

3 年生：キャリア形成に関する情報提供やオンライン講習等の機会の設定

ウ 教員の授業改善に関する情報交換や合同研修会の実施

(2) 中高一貫教育校による学校間連携

ネットワーク校の佐渡中等教育学校と阿賀黎明高校（H14 から併設型、H31 から連携

型の中高一貫教育校)は、本県の課題である小規模な中高一貫教育校であり、人間関係力の育成のための連携・交流ネットワークの形成に向け、次の取組を行う。

- 特色ある学校行事や探究活動に関する合同発表
- 中高6年間一貫した探究活動の在り方の研究
- 他の中高一貫教育校との連携を視野に入れた学校間連携の研究

来年度から、佐渡中等教育学校前期課程生と阿賀町立阿賀津川中学校とで学校紹介をはじめとした生徒交流を開始し、特色ある学校行事や探究活動の取組内容について合同発表を実施する予定である。

(3) 羽茂高校と阿賀黎明高校による「地域探究コース」の学校間連携

本県では、地域と連携した体験活動や探究的な学習に重点的に取り組む「地域探究コース」を、令和2年度に羽茂高校に、令和4年度に阿賀黎明高校にそれぞれ設置した。離島と中山間地域という異なった環境に立地する「地域探究コース」同士による学校間連携について、次の取組を行う。

- 両校の地域における課題解決に向けた探究内容の整理と共有
- 両校の地域における魅力的なコンテンツを活かした地域活性化活動の共有

今年度は、当該2校に佐渡総合高校を加えた3校で、オンラインによる探究活動の成果発表を実施し、互いのこれまでの学びを深めることができた。来年度は、引き続き成果発表の機会を定期的に確保するとともに、地域探究コースの連携のあり方を協議することとする。

Ⅲ 学校と地域とが連携・協働した運営体制や取組の充実に係る調査研究

(1) 「スクール・ポリシー」の策定を見据えた取組

県教育委員会では、各校との協議及び地元自治体等への意見聴取を踏まえ、令和5年3月にスクール・ミッションを再定義し、公表することとしており、県立高校等は、このスクール・ミッションに基づき、令和5年度にスクール・ポリシーの策定作業を行い、令和6年3月に策定、公表する予定である。このことを踏まえ、佐渡島内5校と阿賀黎明高校では、令和5年度に、佐渡市と阿賀町の各コンソーシアムにおいて、各校のスクール・ポリシー策定に向けた協議を行う予定である。

【スクール・ミッションの再定義】

- 市町村の意見を踏まえ、各学校と協議しながら「スクール・ミッションの再定義」を策定、公表（R5年3月）

【スクール・ポリシーの策定】

- ① 令和5年3月公表の「スクール・ミッション」を踏まえ、各学校が策定作業開始
- ② 学校で作成した案を保護者や学校外の関係者に提示し、意見聴取
- ③ 高等学校教育課と協議し、スクール・ポリシーを策定、公表（R6年3月）

※スクール・ポリシー（三つの方針）の内容

- 育成を目指す資質・能力に関する方針（グラデュエーション・ポリシー）
- 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）
- 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）

(2) 探究活動を中心としたコンソーシアムの支援の在り方の研究

第3章のアンケート調査の分析において、ネットワーク構成校の「地域の将来に対する明るい希望」や「将来の地域貢献意識」の割合が高くはなかったことを踏まえ、各コンソーシアムと情報共有して、特に生徒が直接参画できる機会や環境を充実させる。また、SDGs の理解促進の機会や、生徒の進路希望に応じた職場体験や各種機会を提供することで、生徒の探究学習の充実や進路実現、そして各学校の魅力向上につなげていくこととする。

なお、各コンソーシアムの取組については、次の共通理念を再確認する。

- 生徒が「主語」になる（主体性の確保）
- 生徒が「手応え」を実感できる（自己肯定感の高まり）
- 生徒が「本物」と出会える（百聞は一見にしかず）
- 生徒が「地域らしさ」から学べる（郷土愛の醸成）
- 生徒も大人も「ワクワク」しながら活動（探究心の刺激）